雇用者数 ~女性は増加傾向、男性は平成9年まで増加傾向、その後横ばい

白書対策 働く女性の実情(2017年版) No.1 務省「労働力調査」によると、昭和 60 年の女性の雇用者数は 1,548 万人であったが、 平成 27 年は 2,474 万人と、<u>ほぼ一貫して増加傾向</u>にあり、926 万人の増加(昭和 60 年比 59.8%増)となっている。 男性は昭和 60 年は 2,764 万人であったが、平成 27 年は 3,166 万人で、402 万人の増加(同 14.5%増)となっている。 雇用者総数に占める女性の割合は、昭和 60 年は 35.9%であったが、<u>平成 27 年は 43.9%となり、8.0ポイント上昇</u>した。

雇用者数を年齢階級別にみると、女性は昭和 60 年は、<u>「20~24 歳」が 262 万人</u>(女性雇用者総数に占める割合 16.9%)と最も多く、次いで「40~44 歳」209 万人(同 13.5%)、「35~39 歳」(同 13.2%)が 205 万人の順であったが、平成 27 年は、<u>「40~44 歳」が 328 万人(同 13.3%)</u>、次いで「45~49 歳」が 302 万人(同 12.2%)、「35~39 歳」及び「50~54 歳」が 270 万人(同 10.9%)の順となっている。

雇用者数の年齢階層別…男女とも「40歳~44歳」が最も多い

男性は昭和 60 年は、「 $35\sim39$  歳」が 424 万人(男性雇用者総数に占める割合 15.3%)と最も多く、次いで「 $30\sim34$  歳」376 万人(同 13.6%)、「 $40\sim44$  歳」354 万人(同 12.8%)の順であったが、平成 27 年は、「 $40\sim44$  歳」(同 13.3%)が 422 万人と最 1.8%0、次いで「1.8%0、次いで「1.8%0、「1.8%0 の順となっている。

また、厚生労働省「<mark>賃金構造基本統計調査</mark>」により、一般労働者(常用労働者のうち短時間労働者以外の者)の平均年齢をみると、昭和 60 年の女性の平均年齢は 35.4歳であったが、平成 27 年は 40.7歳とほぼ一貫して上昇傾向にある。 男性は昭和 60年は 38.6歳であったが、平成 27年は 43.1歳とほぼ一貫して上昇傾向にある。